

第36回海外養殖魚研究会が、昭和61年 4月24日に、J I C A国際協力総合研修所において行なわれました。講演者は、J I C A水産専門員の木谷浩氏にお願いしました。

〔テーマ・中南米に於けるエビ養殖の方向性〕

クルマエビ属の28種はその形態、生態的特徴により6亜属に分けられ、このうち、中南米には2亜属が分布している。この分布は形態学的には、エビの受精囊の形と甲上の溝の有無でなされるが、体色で分けるとホワイト系とブラウン系のエビに分類される。北米、カリブ海を含めた中南米にはホワイト系が5種類、ブラウン系が8種類記録されている。太平洋岸ではホワイト系の*P. vannamei*（ホワイト）と*P. stylirostris*（ブルー）及びブラウン系の*P. californiensis*（ブラウン）が商業的重要種である。ホワイト系は一般にブラウン系より成長が早く、エクアドル及びペルーで*P. vannamei*が養殖されているが、現在、稚エビ不足が一部で表面化しており、種苗生産技術の確立が緊急に望まれている。中南米のエビ養殖を考える場合、種苗生産技術の確立に加え、生物学的及び生態学的データが不足しており、その蓄積をもっと前向きに検討することが必要である。

以上が講演概略ですが、ホワイト系とブラウン系の生態的特徴の違いを詳細に述べられ、中南米のエビに関する養殖技術を指導する際には、これらの生態的特徴を熟知することが必要不可欠であると指摘している。また、エビの漁獲方法及びその状況、価格等についても図表を用いてわかりやすく説明された。そのうえ、*P. vannamei*の集約養殖の例として、メキシコのSonora州Penascoにおいて、コカコーラ（株）の出資によりアリゾナ大学（合衆国）とソノラ大学（メキシコ）が行なった共同研究を紹介された。その手法は、空気により膨らませた骨組みのないビニールハウス（アエロドーム）内で、約30 x 2 x 0.3 mのコンクリートタンク2基により、換水率3回転/時のRaceway systemで3-6 kg/m<sup>2</sup>の高生産をあげ収益性も高く、収穫は3回/2年である。また、アリゾナ大学は、ハワイにおいてもこの方式を用いた大規模な試験を行なっているということです。当日講演者により用意されたテキスト（19ページ）がありますので、ご希望の方は事務局に御一方下さい。お送りいたします。

今回の出席者は以下の通りです。

川口幸生（泰東製鋼：572-3234）

木谷浩（J I C A：355-0017）

久間千秋（東邦水産：507-3324）

香原知志（水産経済新聞：404-6531）

佐藤博（大洋漁業：216-0811）

鳥居道夫（水産エンジニアリング：359-9351）、

若松豪（O A F I C：504-0769）

望月秀郎（三井農林海洋産業：241-3148）

貫山義徹、林田仁志（日本捕鯨：506-5377）

加福竹一郎、池ノ上宏、田中秀幸、平松一人、飯沢正人（国際水産技術開発）